

2021年度  
年次報告書



和歌山大学

国際観光学研究センター

CENTER  
FOR  
TOURISM  
RESEARCH



# Contents

<b>1.</b>	<b>国際観光学研究センター(CTR)について</b> .....	2
<b>1.1.</b>	ミッション.....	2
<b>1.2.</b>	ビジョン.....	2
<b>1.3.</b>	研究推進におけるキーワード.....	2
<b>1.4.</b>	目標.....	2
<b>1.5.</b>	Tourism & SDGs.....	2
<b>1.6.</b>	運営体制.....	3
<b>1.6.1.</b>	組織図.....	3
<b>1.6.2.</b>	意思決定機関.....	3
<b>1.6.3.</b>	CTR研究員.....	4
<b>1.6.4.</b>	CTR研究ユニット.....	11
<b>1.7.</b>	活動内容.....	12
<b>1.7.1.</b>	研究活動.....	12
<b>1.7.2.</b>	研究・教育サポート.....	12
<b>1.7.3.</b>	広報、アウトリーチ、アドボカシー.....	12
<b>2.</b>	<b>活動報告</b> .....	13
<b>2.1.</b>	研究活動.....	13
<b>2.1.1.</b>	主な出版業績一覧.....	13
<b>2.1.2.</b>	主な研究プロジェクト一覧.....	28
<b>2.1.3.</b>	「2021年度CTRリサーチフォーラム」開催.....	30
<b>2.1.4.</b>	「CTR International Conference “International Tourism Research Salon”」開催.....	30
<b>2.1.5.</b>	論文集「Wakayama Tourism Review」出版.....	31
<b>2.2.</b>	研究・教育サポート.....	31
<b>2.2.1.</b>	研究力養成支援.....	31
<b>2.2.2.</b>	セミナー等イベント開催支援.....	32
<b>2.2.3.</b>	観光学部授業科目の開講支援.....	34
<b>2.3.</b>	広報、アウトリーチ、アドボカシー.....	35
<b>2.3.1.</b>	ニュースレター発行.....	35
<b>2.3.2.</b>	外部機関との連携促進.....	35
<b>2.3.3.</b>	メディア出演.....	35
<b>2.3.4.</b>	学会、イベント参加.....	36
<b>2.3.5.</b>	学会・イベント開催協力.....	37
<b>2.3.6.</b>	セミナー等の企画・運営.....	39



# 1. 国際観光学研究センター(CTR)について

**1.1. ミッション** 観光学研究の高度化を通じて、健全で持続可能な社会の発展に寄与する。

**1.2. ビジョン** 倫理と責任ある観光発展に重きを置く、アジア太平洋地域を牽引する研究機関を確立する。

## 1.3. 研究推進におけるキーワード

- Ethics and Responsibility
- Diversity and Equity
- Community and Environment

## 1.4. 目標

- 国内外の観光におけるステークホルダーとの連携強化
- サステナビリティを支援する研究活動を通じた、倫理的かつ責任ある観光活動の促進
- 学内外における活発な研究文化の醸成
- 観光教育の支援

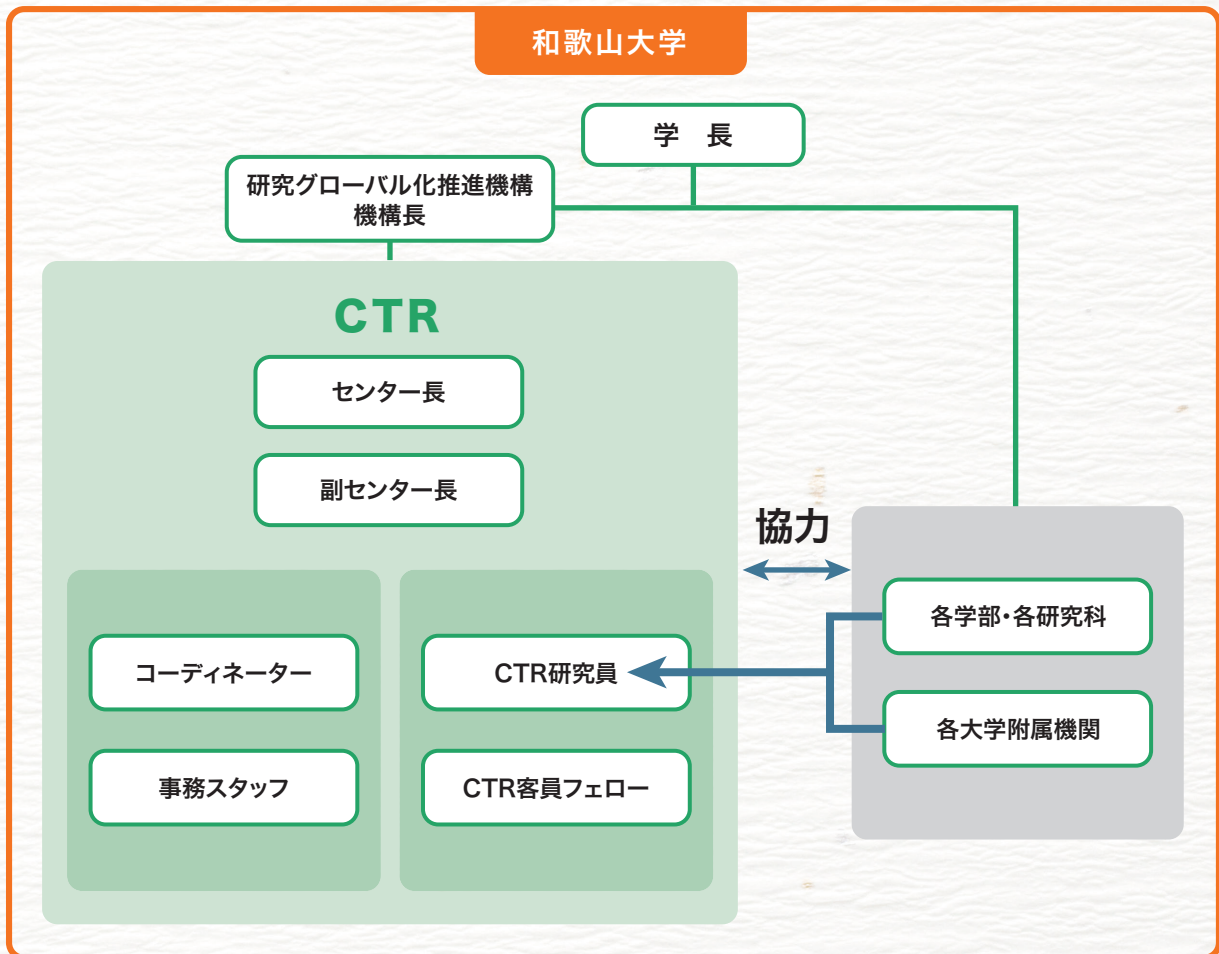
## 1.5. Tourism & SDGs

国連の掲げる「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に観光を通じて貢献していく。



## 1.6. 運営体制

### 1.6.1. 組織図



2022年3月現在

### 1.6.2. 意思決定機関

グローバル化推進会議	全学のグローバル化推進を踏まえた戦略・企画の立案・管理。
CTR 運営委員会	日常的な意思決定及び、事業計画管理・評価。



### 1.6.3. CTR研究員

CTR研究員 (計38名)	和歌山大学客員教授	3名
	CTR専任研究員	3名
	CTR併任研究員	観光学部21名、学内他学部等11名
CTR客員フェロー (計95名)	CTR名誉フェロー	2名
	CTR客員フェロー	84名
	CTR客員ジュニアフェロー	9名

## 研究員一覧

### 1.6.3.1 CTR研究員

2022年3月現在

#### <和歌山大学客員教授>

MILLER, Graham	和歌山大学 客員教授、Professor, University of Surrey (UK)
RITCHIE, Brent W.	和歌山大学 客員教授、Professor, The University of Queensland (Australia)
SHARPLEY, Richard	和歌山大学 客員教授、Professor, University of Central Lancashire (UK)

#### <CTR専任研究員>

CHEER, Joseph M.	国際観光学研究センター 特任教授
PROGANÓ, Ricardo Nicolás	国際観光学研究センター 特任講師
ZAINAL ABIDIN, Husna	国際観光学研究センター 特任講師



## ＜CTR併任研究員＞

CHAKRABORTY, Abhik	観光学部 准教授
DOERING, Adam	観光学部 准教授
秋山 演亮	クロスカル教育機構（教養・協働教育部門）教授
足立 基浩	経済学部 教授
井伊 博行	システム工学部 教授
上野 美咲	経済学部 講師
大浦 由美	観光学部 教授
尾久土 正己	観光学部 教授
加藤 久美	観光学部 教授
木川 剛志	観光学部 教授
岸上 光克	食農総合研究教育センター 教授
北村 元成	観光学部 教授
佐々木 壮太郎	観光学部 教授
佐藤 祐介	クロスカル教育機構（教養・協働教育部門）講師
佐野 楓	観光学部 准教授
澤田 知樹	観光学部 准教授
竹田 明弘	観光学部 准教授
竹林 明	観光学部 教授
竹林 浩志	観光学部 准教授
辻本 勝久	経済学部 教授
出口 竜也	観光学部 教授
富田 晃彦	教育学部 教授
永井 隼人	観光学部 准教授
永瀬 節治	観光学部 准教授
中元 一恵	国際交流課 課長
東 悦子	観光学部 教授
彦次 佳	教育学部 准教授
藤田 武弘	観光学部 教授
堀田 祐三子	観光学部 教授
八島 雄士	観光学部 教授
吉田 道代	観光学部 教授
吉野 孝	システム工学部 教授



## 1.6.3.2 CTR客員フェロー

敬称略(2021年10月現在)

### <CTR名誉フェロー>

特別主幹研究員は、観光学の発展・確立に向けた包括性・普遍性の高い研究課題を有し、その裏付けとなる優れた研究実績を有する研究員をいう。

大橋 昭一	和歌山大学 名誉教授
山田 良治	和歌山大学 名誉教授

### <CTR客員フェロー>

CTR 客員フェローは、国内外の大学教員または一定の研究経験を有するものとし、CTR 研究員との共同研究を行うもの、CTR での研究プロジェクトへ参加するものとする。

ADAMS, Kathleen M.	Professor, Department of Anthropology, Loyola University Chicago (USA)
ADIE, Bailey Ashton	Independent Scholar
ALIPERTI, Giuseppe	Assistant Professor, Tourism Department, University of Deusto (Spain)
APOLLO, Michal	Assistant Professor, Pedagogical University of Cracow (Poland)
BLAZQUEZ, Macia	Professor, University of the Balearic Islands (Spain)
CHIEN, Pi-Hsuan Monica	Senior Lecturer, UQ Business School, The University of Queensland (Australia)
COLE, Stroma	Senior Lecturer, University of Westminster (UK)
CROSSLEY, Émilie	JSPS Postdoctoral Fellow, Hokkaido University (Japan)
DOLEZAL, Claudia	Professor, IMC University of Applied Sciences, Krems (Austria)
DRUMMOND, Damon	Graduate Researcher, Flinders University (Australia) / Adjunct Lecturer, Keio University (Japan)
HALLINAN, Chris	Research Project Coordinator, School of Culture and Communications, University of Melbourne (Australia)
HARDY, Anne	Associate Professor, University of Tasmania (Australia)
HAYWARD, Philip	Adjunct Professor, University of Technology Sydney (Australia)
IOANNIDES, Dimitri	Chaired Professor and Head of Discipline, Department of Economics, Geography, Law & Tourism Studies, Mid-Sweden University (Sweden)



JUDD, Barry	Director, Indigenous Studies, School of Culture and Communications, University of Melbourne (Australia)
KAUSAR, Devi	Dean, Faculty of Tourism, Pancasila University (Indonesia)
LAPORTE, Dominic	Professor, Université du Québec à Montréal (Canada)
LEE, Emma	Aboriginal Research Fellow, Centre for Social Impact, Swinburne University of Technology (Australia)
MILANO, Claudio	Adjunct Professor, Social and Cultural Anthropology Department, Autonomous University of Barcelona / Head of IDITUR (Centre for Research, Dissemination and Innovation in Tourism), Ostelea Tourism Management School, University of Lleida (Spain)
MOSTAFANEZHAD, Mary	Associate Professor, Department of Geography & Environment, University of Hawai'i at Mānoa (USA)
MULDOON, Meghan L.	Assistant Professor, University of Groningen, Campus Fryslân, Leeuwarden (The Netherlands)
ONG, Faith	Lecturer, School of Business, The University of Queensland (Australia)
OOI, Can Seng	Professor, School of Social Sciences, University of Tasmania (Australia)
PORTER, Brooke A.	Associate Professor, Food and Sustainability Studies Program at Umbra Institute (Italy)
PRATT, Stephen	Professor and Head of School of Tourism & Hospitality Management, University of the South Pacific (Fiji)
PRINCE, Solène	Lecturer, European Tourism Research Institute (ETOUR), Mid Sweden University (Sweden)
QU, Meng	Assistant Professor, Hiroshima University (Japan)
REEVES, Keir J.	Professor, Federation University (Australia)
SCHÄNZEL, Heike A.	Associate Professor, Hospitality & Tourism, Auckland University of Technology (NewZealand)
SHARMA, Nitasha	Lecturer, Faculty of Spatial Sciences, University of Groningen (The Netherlands)
SIN, Harngh Luh	Associate Professor, School of Tourism Management, Sun Yat-Sen University (China)
THAM, Aaron	Lecturer, Leisure and Events Management, University of the Sunshine Coast (Australia)
TING, Hiram	Associate Professor, UCSI University (Malaysia)
TOLKACH, Denis	Senior Lecturer, James Cook University (Australia)
VOLGGER, Michael	Director, Tourism Research Cluster, Curtin University (Australia)



VOROBJOVAS-PINTA, Oscar	Lecturer, School of Business and Law, Edith Cowan University (Australia)
WENGEL, Yana	Associate Professor, Hainan University - Arizona State University International Tourism College (China)
YANG, Elaine Chiao Ling	Lecturer, Griffith University (Australia)
YOUNG, Tamara	Associate Professor, College of Human and Social Futures, The University of Newcastle (Australia)
石川 肇	国際日本文化研究センター プロジェクト研究員
伊藤 央二	中京大学スポーツ科学部 准教授
今井 裕子	コムサポートオフィス 代表
上原 史子	岩手県立大学 講師
内ヶ島 友章	飯田市役所
遠藤 理一	西武文理大学サービス経営学部 専任講師
大野 一	国土交通省 観光庁
岡田 美奈子	一般社団法人地域観光研究所 主任研究員
小形 正嗣	関西テレビ放送株式会社
小川 勝久	大阪芸授大学 写真学科 客員教授
小野 綾子	女子美術大学 助手 (助教)
小原 満春	沖縄県立那覇商業高等学校
柏木 翔	神奈川大学 国際日本学部国際文化交流学科 助教
鎌田 裕美	一橋大学大学院経営管理研究科 准教授
唐崎 翔太	島旅農園「ほとり」 経営
神田 孝治	立命館大学 文学部 教授
金 宰煜	広島大学大学院 人間社会科学研究科 講師
権 純珍	倉敷芸術科学大学 危機管理学部 教授



黒田 有彩	株式会社アンタレス 代表取締役
間中 光	追手門学院大学 地域創造学部 講師
小柴 恵一	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 イノベーション推進室 A&V 企画担当部長
斎藤 望	富山福祉短期大学 国際観光学科 准教授
齊藤 広晃	立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 准教授
笹森 琴絵	海洋生物調査員、酪農学園大学非常勤講師、自然写真家
佐野 宏樹	立命館大学 経営学 准教授
淑瑠 ラフマン	金沢大学 先端科学・地域共創推進機構 特任助教
杉山 幹夫	株式会社サン広告社 シニアプロデューサー
蘇 哲仁	Distinguished Research Professor, Department of Restaurant, Hotel and Institutional Management, Fu Jen Catholic University (Taiwan)
田中 光敏	大阪芸術大学 映像学科 教授、映画監督、CMディレクター、クリエイターズユニオン 代表取締役
曹 禎敏	ユタカ交通株式会社
陳 意玲	国立屏東大学 休閒事業経営学系 助理教授 (台湾)
永田 修一	関西学院大学 商学部 准教授
長野 史尚	九州医療スポーツ専門学校 教育職員
中村 仁	跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 准教授
藤原 久嗣	広島経済大学 准教授
堀込 孝二	大阪国際大学 人間科学部 スポーツ行動学科 講師、特定非営利活動法人スポーツファンデーション 代表理事
牧野 恵美	広島大学 産学・地域連携推進部 アントレプレナー教育部門長、准教授
牧野 光朗	前 飯田市長
宮口 直人	株式会社ビズユナイテッド 代表取締役
森 清顕	清水寺 執事補



森越 京子	北星学園大学短期大学部 教授
築田 香織	和歌山大学観光学研究科博士後期課程単位取得退学（見込み）
吉住 千亜紀	飯田市美術博物館
吉田 潔	M&R 地域マーケティング研究所 代表取締役
李 只香	九州共立大学 経済学部 教授

### <CTR客員ジュニアフェロー>

CTR 客員ジュニアフェローは、原則として、国内外の大学院修士課程及び博士課程在籍中の学生もしくは、修士課程修了後、CTR 研究員との共同研究やCTR での研究プロジェクトへ参加するものとする。修士課程及び博士課程在籍中の学生については、在籍大学の指導教員の許可を受ける必要がある。なお、当該研究により単位を付与することはない。

NGOC, Le Bao	和歌山大学観光学研究科博士前期課程（卒業見込）
SCHMIDT, Januschka B. I.	PhD Candidate, University of Groningen (The Netherlands)
SHEPHERD, Jack	PhD Candidate, Mid Sweden University (Sweden)
明山 文代	無所属（和歌山大学観光学研究科修了）
神野 直幸	和歌山大学観光学研究科博士後期課程
江 子熹	香港理工大学 School of Hotel and Tourism Management 博士課程（香港）
平井 千恵	一般社団法人 市駅グリーングリーンプロジェクト 理事
藤川 祐輝	和歌山大学観光学研究科博士前期課程
山岸 大二郎	和歌山大学観光学研究科博士前期課程



## 1.6.4 CTR研究ユニット

CTRでは3つの研究ユニットを組織しており、共同研究や研究会等の活動は「経営 / Management」「地域 / Community」「文化・遺産 / Culture & Heritage」の各ユニットを軸に行っている。なお、CTR 研究員（客員フェローを除く）はいずれかのユニットに所属し、研究プロジェクトは複数のユニットにまたがることもある。



### 経営 | Managementユニット

概要	観光・ホスピタリティ産業及び観光地の経営戦略、マーケティング、リスクマネジメント、イノベーションを主な研究分野とする。研究活動を通じて政策立案及び戦略の策定に貢献し、観光地及び観光・ホスピタリティ産業の持続可能な競争優位の構築を目指す。
メンバー	Giuseppe Aliperti, Pi-Hsuan Monica Chien, Brent W. Ritchie, Aaron Tham, Husna Zainal Abidin, 足立 基浩、伊藤 央二、上野 美咲、上原 史子、柏木 翔、鎌田裕美、金 幸焜、権 純珍、間中 光、江 子薫、齊藤 広晃、佐々木 壮太郎、佐野 楓、杉山 幹夫、蘇 哲仁、竹田 明弘、竹林 明、竹林 浩志、陳 意玲、辻本 勝久、出口 竜也、永井 隼人、長野 史尚、中村 仁、堀込 孝二、牧野 恵美、宮口 直人、森越 京子、八島 雄二、山岸 大二郎、吉田 潔、李 只香

### 地域 | Communityユニット

概要	地域貢献型地方国立大学である和歌山大学にとって、地域社会は切り離せない観光研究の場である。地域社会や地域経済との関わりという観点から観光現象を把握し、「まちづくり」や「地域活性化」といったアプローチで観光開発に関する調査・研究を行う。
メンバー	Michal Apollo, Macia Blanzquez, Abhik Chakraborty, Joseph M. Cheer, Adam Doering, Chris Hallinan, Philip Hayward, Barry Judd, Devi Kausar, Graham Miller, Meng Qu, Hiram Ting, Denis Tolkach, Michael Volgger, 秋山 演亮、井伊 博行、石川 肇、大浦 由美、小形 正嗣、小川 勝久、尾久土 正己、小野 綾子、岸上 光克、黒田 有彩、小柴 恵一、斎藤 望、佐藤 祐介、澤田 知樹、永瀬 節治、中元 一恵、藤田 武弘、堀田 祐三子、牧野 光朗、吉住 千亜紀

### 文化・遺産 | Culture & Heritageユニット

概要	観光現象を文化論的な観点から探求していく他、文化遺産のマネジメントや保全及び開発に関する広い課題について、クリエイティブツーリズムなどの新しいアプローチも取り入れる。歴史的地域、建造環境や都市、農村や農業景観、自然環境、特徴ある文化が存続する地域及び無形遺産の保全や再生なども課題とする。
メンバー	Ricardo Nicolás Proganò, Richard Sharpley, 加藤 久美、神田 孝治、木川 剛志、北村 元成、田中 光敏、富田 晃彦、東 悦子、彦次 佳、森 清顕、吉田 道代



## 1.7. 活動内容

### 1.7.1. 研究活動

#### ●研究プロジェクト

- ◆科学研究費助成事業採択研究課題
- ◆CTR 研究員向け研究支援プロジェクト

#### ●「2021年度CTRリサーチフォーラム」開催

#### ●「CTR International Conference “International Tourism Research Salon”」開催

#### ●論文集「Wakayama Tourism Review」出版

### 1.7.2. 研究・教育サポート

#### ●研究プロジェクト助成

- ◆CTR 研究員向け研究支援プロジェクト

#### ●研究環境整備

- ◆主要図書（電子ジャーナル含む）整備
- ◆研究成果公開促進インセンティブ制度
- ◆研究関連情報提供

#### ●研究力養成支援(FD、SD研修)

#### ●セミナー等イベント開催支援

#### ●観光学部授業科目の開講支援

### 1.7.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー

#### ●ニュースレター発行

#### ●外部機関との連携促進

#### ●メディア出演

#### ●学会・イベント参加(研究発表、招待講演、モデレーター、オブザーバー等)

#### ●学会・イベント開催協力

#### ●セミナー等の企画運営



## 2. 活動報告

### 2.1. 研究活動

#### 2.1.1. 主な出版業績一覧

研究ユニットごとの主な出版業績は以下の通り。なお、現学内研究員の業績詳細は、本学ウェブサイト内、研究者総覧ページ  
(<https://researchers.center.wakayama-u.ac.jp/search?m=home&l=ja>) 参照。

#### 経営ユニット<研究論文>

出版年月	タイトル []内はジャーナル名 ※は Scopus 収録ジャーナル、()内は Scopus CiteScore 2020
	著者 *は CTR 研究員
要旨 []内はキーワード	
2022年3月	COVID-19 パンデミックと観光研究：観光・ホスピタリティマネジメント分野の研究動向分析から [観光学評論]
	永井 隼人* (和歌山大学観光学部 准教授)
<p>新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックは、世界の観光関連産業に大きな影響を与えている。観光研究者は、パンデミックの初期段階からこの危機に対応するための国際的な議論のプラットフォーム構築に向け活発に活動しており、国際ジャーナルでは既に多くの論文が発表されている。そこで本研究では、観光研究の主要な一分野である観光・ホスピタリティマネジメント分野の国際ジャーナルで発表された COVID-19 と観光に関連する論文を対象に、テキストマイニングの手法を用いて研究動向を探索した。データベースから抽出された242編の論文を分析した結果、観光関連産業の雇用や人材、パンデミック下での旅、COVID-19 後の観光など、多様なテーマの研究が様々な国で展開されていること、またジャーナルによる傾向の違いも明らかになった。一方、日本国内から当該分野の国際ジャーナルでの研究発表は限定的であった。今後も多くの論文発表が予想されることから、本稿では今後の研究課題についても議論した。</p> <p>[COVID-19 パンデミック、観光マネジメント、ホスピタリティマネジメント、研究動向、テキストマイニング]</p>	



出版年月	タイトル []内はジャーナル名 ※は Scopus 収録ジャーナル、()内は Scopus CiteScore 2020
	著者 *は CTR 研究員
要旨 []内はキーワード	

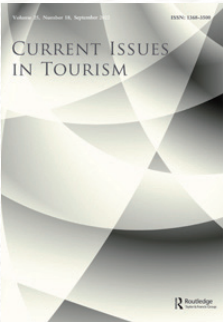
2022年3月	自由時間における身体活動の阻害要因と阻害要因折衝：日本人と欧州系カナダ人の文化的類似性と相違性について [生涯スポーツ学研究]
	伊藤 央二* (中京大学スポーツ科学部、和歌山大学国際観光学研究センター) 河野 慎太郎 (アルバータ大学キネシオロジー・スポーツ・レクリエーション学部)

In Japan, the Basic Act on Sport aims to promote participation in not only competitive sport activities but also leisure-time physical activities (LTPA). However, LTPA levels among Japanese people remain low. In the field of leisure studies, lack of leisure participation is often understood through the conceptual lens of constraints and constraint negotiation, and these concepts have guided LTPA research. Canada, where leisure studies is well-established, has actively promoted LTPA, which resulted in a more physically active society. Therefore, cross-cultural research on constraints to and constraint negotiation for LTPA between Japan and Canada can provide us with valuable insights into achieving goals specified in the Basic Act on Sport and developing similar LTPA-related policies in the future. As such, the purpose of this study was to examine cultural similarities and differences in LTPA constraints and constraint negotiation between Japanese and Euro-Canadian adults. Useable data were obtained from 299 Japanese and 286 Euro-Canadians using online surveys. Results of Hotelling T2 tests and follow-up t-tests indicated that (a) Euro-Canadian adults participated in LTPA more frequently than Japanese adults; (b) Euro-Canadian adults experienced lifestyle constraints more than Japanese adults; and (c) Euro-Canadian adults utilized psychological, physiological, lifestyle, interpersonal, and time negotiation strategies more than Japanese adults. These results highlighted cultural similarities in constraints and cultural differences in constraint negotiation between Japanese and Euro-Canadian adults. This research emphasizes the importance of leisure education in Japan, and the future LTPA-related policies including Sport Basic Plan should take into account leisure education as life learning opportunities for Japanese people.

[ 阻害要因、阻害要因折衝、自由時間における身体活動、文化 ]




出版年月	タイトル []内はジャーナル名 ※は Scopus 収録ジャーナル、()内は Scopus CiteScore 2020
	著者 *は CTR 研究員
要旨 []内はキーワード	

2022年1月 	Psychological consequences of tourism ideal affect [Current Issues in Tourism] ※ (8.6)  Eiji Ito*, School of Health and Sport Sciences, Chukyo University, Toyota, Japan; Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama, Japan Shintaro Kono, Faculty of Kinesiology, Sport, and Recreation, University of Alberta, Edmonton, Canada Jingjing Gui, Department of Psychology, University of Alberta, Edmonton, Canada
<p>Guided by the affect valuation theory, this study examined the relationships among tourism ideal affect (i.e. how people want to feel at tourism destinations), tourism actual affect (i.e. how people really feel at tourism destinations), and tourism satisfaction. Online surveys were conducted before and after travel, and 418 Japanese adults provided usable data. Our SEM results indicated that (a) tourism ideal affect, not global ideal affect, influenced tourism actual affect; (b) tourism ideal affect influenced tourism actual affect with matching arousal levels (high- vs. low-arousal); and (c) tourism ideal affect influenced tourism satisfaction via tourism actual affect, but only for high-arousal levels. Our research extends ideal affect to the tourism context, which has motivational force and better explains tourism experience and satisfaction than global ideal affect. Tourism federations and agencies need to know that tourism and global ideal affect is distinct, and the former predicts actual emotional experiences in tourism. Providing people with tourism experiences that match their tourism ideal affect is the key to tourism development and planning/managing tourism destinations. [Affect valuation theory; Tourism ideal affect; Tourism actual affect; Tourism satisfaction; Japan]</p>	



出版年月	タイトル □内はジャーナル名 ※は Scopus 収録ジャーナル、()内は Scopus CiteScore 2020
	著者 *は CTR 研究員
要旨 □内はキーワード	

2021年12月	Conceptualization of perceived risk from the participant perspective in trail running events [International Journal of Sport and Health Science]
	Shiro Yamaguchi, Faculty of Human and Social Sciences, University of Marketing and Distribution Sciences; Department of Movement and Sport Sciences, Vrije Universiteit Brussel Eiji Ito*, School of Health and Sport Sciences, Chukyo University; Center for Tourism Research, Wakayama University

This study conceptualizes the perceived risk of participating in trail running events from a trail runner’s perspective. To this end, we modified the Twenty Statements Test, asking: “What is the risk?” Respondents were required to respond with 10 statements beginning with “The risk is.” Relevant data were obtained from online panels (N = 93) registered with an internet research firm. The results of the thematic analysis revealed six participation-based risks (namely, physical, psychological, financial, interpersonal, equipment, and structural risk) and four natural risks (unexpected, environmental, weather, and time risk). These perceived risks were discussed in the light of the perspectives of participants vs. the perspective of event organizers, and the risks in the context of event vs. non-event. The conceptualization of perceived risk among trail runners was clarified, contributing to the literature on risk management and outdoor sport. The study’s findings indicate that trail running event organizers should take into account participants’ perceived risks to improve risk management in participatory sporting events.

[Risk management; Trail runners; Thematic analysis; Event management; Japan]



出版年月	タイトル []内はジャーナル名 ※は Scopus 収録ジャーナル、()内は Scopus CiteScore 2020
	著者 *は CTR 研究員
要旨 []内はキーワード	

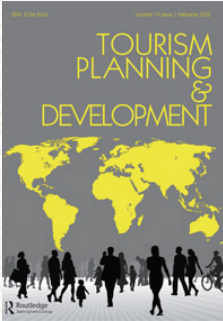
2022年11月	Tourism disaster risk communication: Foreign employees preparedness and involvement in the Japanese accommodation industry [Tourism Planning & Development] ※ (3.7)
	Hayato Nagai*, Faculty of Tourism / Center for Tourism Research, Wakayama University Hiroaki Saito*, College of International Management, Ritsumeikan Asia Pacific University; Center for Tourism Research, Wakayama University Giuseppe Aliperti*, Faculty of Social and Human Sciences, University of Deusto; Disaster Prevention Institute, Kyoto University; Center for Tourism Research, Wakayama University Brent W. Ritchie*, UQ Business School, Faculty of Business, Economics and Law, The University of Queensland; Center for Tourism Research, Wakayama University

Tourism operators play an important role in risk communication during a natural disaster. This study focussed on foreign employees in the Japanese accommodation industry and explored their preparedness for natural disasters and involvement in the disaster risk communication process. Adopting the mental models approach as the basis for the investigation, semi-structured interviews were conducted with foreign employees working at traditional Japanese-style inns (ryokan). The results indicated that foreign workers often do not receive training on how to handle natural disasters at work and are excluded from the risk communication process. Furthermore, their knowledge of local hazards was limited. As this is a timely and important topic, future research directions are proposed to extend discussion on this topic further.

[Accommodation industry; Foreign employees; Japan; Natural disasters; Risk communication; Ryokan]



出版年月	タイトル []内はジャーナル名 ※は Scopus 収録ジャーナル、()内は Scopus CiteScore 2020
	著者 *は CTR 研究員
要旨 []内はキーワード	

2022年7月	Development of a tax-free shopping environment in Japan: An analysis of its representations in a financial newspaper [Tourism Planning & Development] ※ (3.7)
	Daijiro Yamagishi*, Graduate School of Tourism, Wakayama University Hayato Nagai*, Faculty of Tourism, Wakayama University

Tax-free shopping is recognised as an important component of international travel experience, but the investigation of this topic remains limited. This study aims to extend the understanding of the tax-free shopping phenomenon, especially its historical development in Japan through investigating how the topic of tax-free shopping has been viewed and discussed in Japan. To achieve this aims, 549 newspaper articles containing the term *menzei* (Japanese for “tax exemption”) from a major financial newspaper were collected and analysed. The results revealed that the term *menzei* was differently represented in a financial newspaper before and after the national government introduced major inbound tourism development strategies in the early 2000s, indicating that the public interest in the tax-free shopping phenomenon increased as inbound tourism developed. The findings of this study are expected to serve as important foundational knowledge and to encourage future research on this topic.

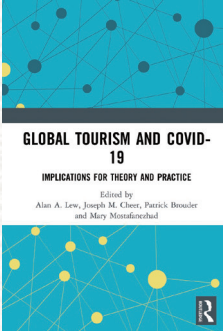
[Japan; Newspaper articles; Tax-free shopping; Text mining]



## 地域ユニット<著書>

出版年月	タイトル □内は出版社名
	著者 / 編者 *は CTR 研究員
<p>2021年11月</p> 	<p>Realising the opportunities of Chinese tourism: A comparative study [Asia Institute, University of Tasmania]</p> <p>Can-Seng Ooi*, University of Tasmania, Australia            Elaine Chiao Ling Yang*, Griffith University, Australia            Garth Lean, Western Sydney University, Australia*Harnng Luh Sin*, Singapore Management University, Singapore            Joseph M. Cheer*, Wakayama University, Japan            Fei Long, Universiti Kebangsaan Malaysia, Malaysia            Chin Ee Ong, Sun Yet-sen University, China            Oscar Vorobjovas-Pinta*, Edith Cowan University, Australia            Ying Wang, Griffith University, Australia            Yue Ma, University of Tasmania, Australia            Heidi Dahles, University of Tasmania, Australia</p>
<p>The project compared various strategies by tourism authorities in different Australian states and different countries in managing the Chinese tourist market. In collaboration with experts in different destinations, this study conducted a media survey of five Australian states and three popular Chinese country destinations on how they attract and manage Chinese visitors.</p>	



出版年月	タイトル □内は出版社名
	著者 / 編者 *は CTR 研究員
<p>2021年10月</p> 	<p>Mountaineering tourism: A critical perspective [Routledge]</p> <p>Michal Apollo*, Assistant professor at the Pedagogical University of Krakow; Fellow of Yale University's Global Justice Program, New Haven, USA; Visiting Scholar at Hainan University-Arizona State University Joint International Tourism College, Haikou, China; Visiting Fellow at the Center for Tourism Research, Wakayama University, Japan</p> <p>Yana Wengel*, Associate professor at Hainan University-Arizona State University Joint International Tourism College, Haikou, China; Visiting Fellow at the Center for Tourism Research, Wakayama University, Japan</p>
<p>2021年9月</p> 	<p>Global tourism and COVID-19: Implications for theory and practice [Routledge]</p> <p>Alan A. Lew, Professor Emeritus at Northern Arizona University, US</p> <p>Joseph M. Cheer*, Professor at the Center for Tourism Research, Wakayama University, Japan; Visiting Professor, AUT, New Zealand and UCSI Malaysia</p> <p>Patrick Brouder, the British Columbia Regional Innovation Chair in Tourism and Sustainable Rural Development at Vancouver Island University, Canada</p> <p>Mary Mostafanezhad*, Associate Professor at the Department of Geography and Environment, University of Hawai'i at Mānoa, US</p>



## ＜研究論文＞

出版年月	タイトル □内はジャーナル名 ※は Scopus 収録ジャーナル、()内は Scopus CiteScore 2020
	著者 *は CTR 研究員
要旨 □内はキーワード	
<p>2022年3月</p> 	<p>The TikTok effect on destination development: Famous overnight, now what? [Journal of Outdoor Recreation and Tourism] ※ (3.9)</p> <p>Yana Wengel*, Hainan University – Arizona State University International Joint Tourism College (HAITC), Hainan University, Haikou, Hainan, China; Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama City, Japan; Department of Tourism and Regional Studies, Institute of Geography, Pedagogical University of Cracow, Cracow, Poland</p> <p>Ling Ma, Hainan University – Arizona State University International Joint Tourism College (HAITC), Hainan University, Haikou, Hainan, China</p> <p>Yixiao Ma, Hainan University – Arizona State University International Joint Tourism College (HAITC), Hainan University, Haikou, Hainan, China</p> <p>Michal Apollo*, Hainan University – Arizona State University International Joint Tourism College (HAITC), Hainan University, Haikou, Hainan, China; Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama City, Japan; Department of Tourism and Regional Studies, Institute of Geography, Pedagogical University of Cracow, Cracow, Poland; Global Justice Program, Yale University, New Haven, USA</p> <p>Kamil Maciuk, Hainan University – Arizona State University International Joint Tourism College (HAITC), Hainan University, Haikou, Hainan, China; Department of Integrated Geodesy and Cartography, AGH University of Science and Technology of Krakow, Krakow, Poland</p> <p>Ann Suwaree Ashton, Graduate School of Tourism Management, National Institute of Development Administration, Bangkok, Thailand</p>



Contemporary tourists increasingly rely on social media platforms to inform their consumption choices. Increasingly more travellers rely on social media to make their travel choices; however, scant research explored the impacts of sudden destination popularity through social media. The current study reveals how TikTok made two off-the-beaten-track destinations in Hainan (China) famous overnight. Using participant observation and interviews, this paper explores how a destination suddenly had to cope not only with overtourism but also with all the issues it generates. The findings revealed that the local community struggles to seize the opportunities offered by tourism while forced to manage the tourist's flow. We propose a management framework for destinations in protected areas that suddenly became 'hot' on social media and Web 2.0. Finally, we discuss the implications for tourism policies and management and highlight the importance of links between user-generated content and the promotion as crucial for future tourism planning in protected areas.

Management implications: The study results highlight how (off-the-beaten track) destination was impacted by unintentional promotion through TikTok. The findings revealed management gaps related to accessibility and amenities that resulted in negative environmental impacts when suddenly tourism numbers increased in a short time. These findings provide important implications for tourism policies, management, and marketing of destinations when their popularity depends on being 'hot' on social media and Web 2.0. The authors propose a Rapid Response Plan framework for handling future cases of sudden destination popularity.

[TikTok; Social media 2.0; Tourism marketing; Destination management organization; Hainan Tropical Rainforest National Park]

2021年12月



Tourism transformations : Resilient islands and revitalized communities - The Japanese Society for Geographical Sciences 2020 Academic Symposium [ 地理科学 (Geographical Sciences)]

FUNCK Carolin, Hiroshima University  
 USUI Rie, Hijiya University  
 LEW Alan A., Northern Arizona University  
 CHEER Joseph M.\*, Wakayama University



出版年月	タイトル []内はジャーナル名 ※は Scopus 収録ジャーナル、()内は Scopus CiteScore 2020
	著者 *は CTR 研究員
要旨 []内はキーワード	
2021年9月	Global tourism in crisis: Conceptual frameworks for research and practice [Journal of Tourism Future] ※ (4.0)
	Joseph M. Cheer*, Wakayama University, Wakayama, Japan; Auckland University of Technology, Auckland, New Zealand; UCSI University, Kuala Lumpur, Malaysia and Monash University, Melbourne, Australia Dominic Lapointe*, Université du Québec à Montréal, Montréal, Quebec, Canada Mary Mostafanezhad*, University of Hawai'i at Manoa, Honolulu, Hawaii, USA Tazim Jamal, Texas A&M University College Station, College Station, Texas, USA
[Biopolitics; Risk society; Political ecology; COVID-19; Tourism recovery; Tourism justice]	



出版年月	タイトル []内はジャーナル名 ※は Scopus 収録ジャーナル、()内は Scopus CiteScore 2020
	著者 *は CTR 研究員
要旨 []内はキーワード	

2021年9月	Tourism, the SDGs and partnerships [Journal of Sustainable Tourism] ※ (8.3)
	<p>Regina Scheyvens, Institute of Development Studies, Massey University, Palmerston North, New Zealand</p> <p>Joseph M. Cheer*, Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama, Japan</p>

In 2019, Massey University in New Zealand hosted the world's first research conference on tourism and the Sustainable Development Goals (SDGs). The aims of this conference were to bring together a wide range of stakeholders to discuss (i) challenges to tourism contributing to the SDGs, and (ii) ways in which tourism can deliver on its potential to be more inclusive, equitable and sustainable. The need for diverse actors to work in partnership to achieve the SDGs emerged as a key theme. This special issue presents several of the papers from that conference, as well as contributions from a broader range of scholars. As is evident in this collection, partnerships in tourism tend to be complex, multi-faceted, subject to multiple legal frameworks and governance arrangements, and are often cross-sectoral, transnational and cross-border. While these overlapping factors can make it challenging for tourism actors to develop effective partnerships to deliver on the SDGs, the articles herein suggest there is considerable promise where stakeholders have shared values and commitments. Tourism scholars need to reflect more on possibilities for constructive partnerships because, as the pandemic milieu has demonstrated, partnerships spanning governments, industries and communities are a fundamental requirement to producing more sustainable tourism futures.

[SDG; Partnerships; Pandemic; Sustainable tourism; Multi-stakeholder] spanning governments, industries and communities are a fundamental requirement to producing more sustainable tourism futures.

[SDG; Partnerships; Pandemic; Sustainable tourism; Multi-stakeholder]



出版年月	タイトル □内はジャーナル名 ※は Scopus 収録ジャーナル、()内は Scopus CiteScore 2020
	著者 *は CTR 研究員
要旨 □内はキーワード	

2021年7月 	Inclusive and regenerative urban tourism: Capacity development perspectives [International Journal of Tourism Cities] ※ (2.4)
	Loretta Bellato, Centre for Urban Transitions, Swinburne University of Technology, Melbourne, Australia; Monash University, Melbourne, Australia Joseph M. Cheer*, Center for Tourism Research, Wakayama University, Japan; Monash University, Australia

Purpose – Using case study analysis, this paper aims to examine the application of capacity development perspectives, critical towards urban tourism that is inclusive and regenerative.

Design/methodology/approach – The study design used a mixed qualitative methods approach underpinned by the inclusive tourism development framework following Scheyvens and Biddulph (2017). This comprised in-depth interviews, focus groups and observational research. A community-based approach was adopted in a diverse cultural and socio-economic field setting.

Findings – The findings demonstrate that people who are marginalised hold valuable tacit knowledge and unique skills that can complement expert tourism knowledge and contribute to the development of more sustainable places and inclusive communities. This finding challenges claims that capacity development must occur before their participation. Local government, alongside non-government organisations and community groups, were found to have a significant role to play in ensuring that residents and people who are marginalised are included in sustainable tourism development.

Originality/value – This study contributes to the burgeoning discourse regarding stakeholder capacity development and readiness for inclusion in urban tourism initiatives. Importantly, regenerative development approaches are applied within the gambit of capacity development making this a unique attempt to integrate stakeholders into the design and implementation of tourism planning processes that uphold inclusive and regenerative priorities.

[Sustainable tourism; Urban tourism; Capacity development; Inclusive tourism development; Regenerative tourism]



<p>2021年7月</p> 	<p>Tourism geographies in the 'Asian Century' [Tourism Geographies] ※ (6.4)</p> <p>Harnng Luh Sin*, School of Tourism Management, Sun Yat-Sen University, Guangzhou, China; Singapore Management University, Singapore, Singapore</p> <p>Mary Mostafanezhad*, University of Hawai'i at Mānoa, Geography, Honolulu, USA</p> <p>Joseph M. Cheer*, Center for Tourism Research, Wakayama University, Wakayama City, Japan; Monash University, Clayton, Australia</p>
<p>From the British Century of the 1800s to the American Century of the 1900s to the contemporary Asian Century, tourism geographies are deeply entangled in broader shifts in geopolitical power (Luce, 1999; Scott, 2008; Shenkar, 2006). This paper considers what the transition into the Asian Century means for some of the most urgent issues of our time such as sustainable development, human rights, gender equality, and environmental change. We critique Anglo-Western centrism in tourism theory and call on tourism scholars to make radical shifts toward more inclusive epistemology and praxis. In the shadow of the COVID-19 pandemic, the significance of the themes addressed are more urgent than ever. The pandemic has hastened claims that the Asian century has further accelerated given the contrasting successes of many Asia-Pacific countries, especially as compared to their Euro-American counterparts (Park, 2020). As critical tourism scholars, we are faced with an unprecedented situation, even as the pandemic looks set to become globally endemic and the true extent of its fullest impacts are only beginning to emerge, with more to surface in the years ahead. That the world faces increasing turmoil is abundantly clear. Yet, amidst the disruption to the everyday, it is hope and compassion, but also political-economic restructuring that is needed to reset the tourism industry in more sustainable, equitable, and ethical directions (Cheer, 2020; Lew, Cheer, Haywood, Brouder, Salazar, 2020; Mostafanezhad, 2020). While in no uncertain terms, the pandemic has forever changed the tourism industry as we once knew it, it is our hope that we can collectively build on the momentum of the inclusive scholarship that Critical Tourism Studies-Asia Pacific is renowned for (Edelheim, 2020; Pernecky, 2020) as we pause to reflect on the possibilities and challenges of tourism in a post-pandemic Asian Century.</p> <p>[Critical Tourism Studies Asia-Pacific; Asian Century; critical tourism studies; Geopolitics; hopeful scholarship; Asia Pacific ]</p>	
<p>2021年4月</p>	<p>Not drowning, waving: Where to for cruise tourism post-COVID-19? [LENS]</p> <p>Joseph M. Cheer*, Adjunct Research Fellow, Faculty of Arts, Monash University; Center for Tourism Research, Wakayama University</p>
<p>[Coronavirus; COVID-19; Cruise Ships; Cruise Industry; Overtourism; Ruby Princess; Diamond Princess; Cruise Tourism; Sustainable Travel]</p>	




## 文化・遺産ユニット<研究論文>

出版年月	タイトル []内はジャーナル名 ※は Scopus 収録ジャーナル、()内は Scopus CiteScore 2020
	著者 *は CTR 研究員
要旨 []内はキーワード	

2021年11月	The impact of COVID-19 on temple stays: A case study from Koyasan, Japan [International Journal of Religious Tourism and Pilgrimage] ※ (1.0)
	Ricardo Nicolas Progano*, Center for Tourism Research, Wakayama University

The 2020 COVID-19 pandemic had a dramatic impact on worldwide religious tourism, with wide repercussions for both visitors and local stakeholders. However, previous studies on disaster management and tourism do not address the impacts on religious destinations. The viewpoints and experiences of religious stakeholders are seldom studied. Therefore, using a qualitative approach, this research aims to examine the impact of COVID-19 on temple stays by utilising Faulkner’s tourism disaster management framework. The case study of the Buddhist complex of Kōyasan (Wakayama Prefecture, Japan) is taken, where 52 temples offer temple stay services. Two rounds of semi-structured interviews were first carried out with the main local tourism stakeholders. In addition, semi-structured interviews were conducted with Buddhist temples to assess the COVID-19 impacts and the posterior countermeasures taken. Results show that temple stays were negatively affected, losing an important number of visitors since March 2020. In particular, inbound tourism was largely affected, leading to a renewed importance of the domestic market. Novel approaches to funding, teleworking and wellness were reported, as stakeholders explored new avenues towards a post-pandemic scenario. The utilisation of virtual alternatives to physical travel were observed but in a limited form. Also, collaborative networks between lay and religious stakeholders proved to be a vital factor for carrying out disaster management measures and later, tourism initiatives. In particular, the existence of international religious networking for carrying out disaster relief was noted.

[Religious tourism; COVID-19; Japan; Temple stay; Disaster event]

2021年10月 	2020 年学界展望ツーリズム [人文地理] ※ (0.1)
	吉田 道代* (和歌山大学 観光学部)



## 2.1.2. 主な研究プロジェクト一覧

### 2.1.2.1. 科学研究費助成事業採択研究課題

文部科学省及び日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業に採択され、CTR 研究員が代表者として取り組む研究プロジェクトは以下の通り（掲載希望課題のみ）。

研究種別	代表者	研究課題	研究分野
基盤研究B	Richard Sharpley	Confronting difficult past: Dark Tourism development in Japan:	観光学
	八島 雄士	観光目的地の競争優位性：訪日客の増加を契機とする DMO マネジャーの役割の変容	観光学
基盤研究 C	Abhik Chakraborty	ポスト・パンデミック時代における持続可能な山岳観光の分析	観光学
	足立 基浩	空間計量経済学を用いたコロナ期の観光需要に関する研究	観光学
	大浦 由美	企業の CSR 活動等を契機とした新たな地域観光の創出：「企業の森」事業に着目して	観光学
	齊藤 広晃 (客員フェロー)	The role of staff breakrooms in employees' psychophysiological recovery, well-being, and performance	観光学
	佐野 楓	ビッグデータの活用によるスマートツーリズム・デスティネーションの構築と価値共創	観光学
	富田 晃彦	国際連携による幼児期の天文教育の研究	科学教育
	藤田 武弘	関係人口と地域住民との価値共創から検証するツーリズム・テロワール価値概念の有効性	農業経済学
若手研究	Ricardo Nicolas Prozano	Analysis of tourism guiding in pilgrimage: Model for perception of role of guides	観光学
	永井 隼人	Attitudes of non-host city residents toward a mega-event during the pre-event stage: A longitudinal study	観光学
国際共同研究強化 (B)	加藤 久美	Enhancing Social-Ecological Resilience through Sustainable Tourism Governance in post-corona era: Traditional value-based approach for Community Vision, Capacity and Leadership	社会学およびその関連分野
	齊藤 広晃 (客員フェロー)	Inducing pro-environmental behavior in tourists for the sustainable development of Japan's tourism and hospitality industries	経済学、経営学およびその関連分野



## 2.1.2.2. CTR助成研究プロジェクト

### 〈CTR研究支援プログラム〉

CTR 研究支援プログラムとは、CTR ミッション「観光学研究の高度化を通じて健全で持続可能な社会の発展に寄与する」を踏まえ、下記の優先目標を考慮した研究プロジェクトを推進し、観光学研究の高度化・国際化を図ることを目的に、研究費助成を行う。CTR 内部の競争的資金の位置づけで、CTR ミッションと下記のキーワードいずれか及び、国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」達成に貢献する内容であることを求める。

#### ●優先目標

- ①日本、アジア太平洋地域における観光学研究の牽引
- ②国内外の主要な観光学研究機関との連携強化

#### ●研究推進にあたるキーワード

- ① Ethics and Resonsibility
- ② Diversity and Equity
- ③ Community and Environment

2021年度採択課題は以下の通り。各課題の概要と活動報告は、CTRウェブサイト (<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/research/projects/ctrsupport/2021/index.html>) に掲載。

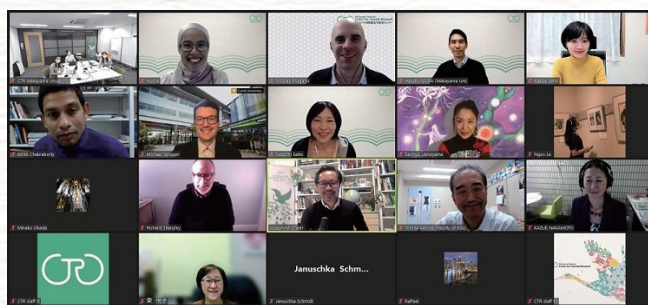
代表者	研究課題
Abhik Chakraborty	世界自然遺産屋久島における自然保護と持続可能な観光の取り組みの分析
加藤 久美	SDGs 達成における観光の貢献～ GSTC デスティネーション基準と SDGs との関係性の検証による観光の貢献度計測手法の考察
木川 剛志	持続可能なデスティネーション・マネジメントとエコシステムを構成する観光映像の研究
佐野 楓	発展途上国の女性起業家をエンパワーメントするための観光ビジネスエコシステムの構築
富田 晃彦	観光を含む広義の宇宙・天文教育についての基礎的研究
八島 雄士	都市間関係の新たな展開の探索：震災からの学びとパンデミック後の復興と持続へのチャレンジ

本プログラムは、学部横断的なプロジェクトに加え、客員フェローの参加や、過年度の短期研究員招へい制度から展開した国際共同研究等、学内外での共同研究を進める枠組みとして定着してきている。また、これまでの採択プロジェクトが、科研費採択や受託事業につながっており、さらなる外部資金獲得につなげるスタートアッププロジェクトの機能としても着実に効果が出始めている。



### 2.1.3. 「2021年度CTRリサーチフォーラム」開催

5年目となる本フォーラムは、例年通り、CTR 研究支援プログラム採択課題6件の中間報告およびCTR 専任研究員3名による活動報告を11月19日（金）に行った。昨年に引き続き英語でのオンライン開催となり、CTR 客員フェローを含めた研究者の他、本学学生も参加した。初回から継続して総括を担当しているRichard Sharpley 本学客員教授（セントラルランカシャー大学教授）も英国から参加し、研究活性化の取り組みが定着していることへの激励と、今後への期待に関するコメントがあった。



※本フォーラムのアブストラクト集は、CTR ウェブサイトよりダウンロード可能。

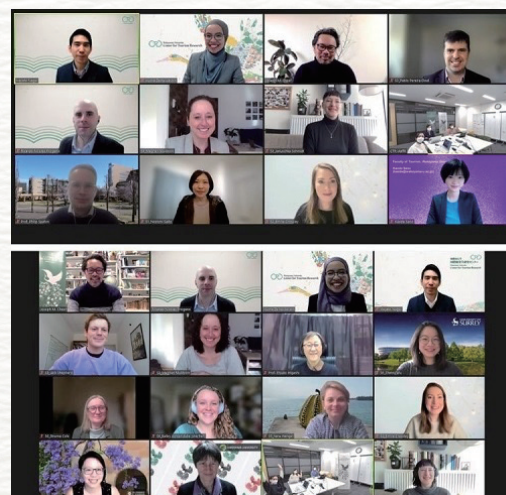
<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/news/2021101800120/>

### 2.1.4. 「CTR International Conference “International Tourism Research Salon”」開催



CTR 研究員および客員フェローが現在行っている調査や研究活動および研究成果を発信することで、日本の観光学研究に関する知見を広く共有し、さらに議論を通じて知の集積と拠点化を推進することを目的に、CTR 主催では初めてとなる国際学会を3月8日（火）と9日（水）の2日に渡り、オンラインで開催した。世界30以上の国や地域から170名に及ぶ参加者が集まった。

本学会では、今後のポストコロナに向け、観光学研究そのものを見直し、新たな課題に取り組んでいく必要性を認識し、「Transforming Tourism Research: Reshape, Rethink, Renew, Regenerate, Restart（観光学研究の変革：再形成、再考、更新、再生、再出発）」をテーマに、4つの基調講演とCTR研究員や客員フェローによる研究発表のセッションが行われた。第1日目の基調講演は、CTR副センター長である東悦子教授およびNPO法人高野山異文化交流ネットワーク代表の松山典子氏による歴史的観点からの和歌山の観光発展についての紹介のあと、東京外国語大学大学院Philip Seaton教授より、日本が得意とするエンターテインメント作品を軸としたコンテンツツールの変遷と未来について視点が提示された。続いて2日目は北海道大学大学院Susanne Klien准教授により、コロナによってもたらされた地方と都市に対する認識のパラダイムシフトについて、そして広島大学大学院Carolin Funck教授により、アイランド



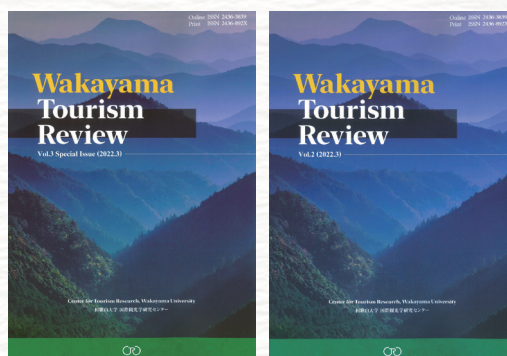


ツーリズムに着眼しコロナ禍で浮かび上がった可能性と課題についてなど、示唆に富む議論が展開された。なお、これら基調講演の録画動画は、和歌山大学公式YouTubeチャンネルから視聴可能となっている。<https://www.youtube.com/user/wakayamauniv>

さらに、6つのセッションで行われた研究発表では、29名のCTR研究員と客員フェローがプレゼンテーションを行った。今回の研究発表の内容を基に執筆された12本の論文は、CTR発行の英文ジャーナルWakayama Tourism Review Vol.3に収録されている。

## 2.1.5. 論文集「Wakayama Tourism Review」出版

Wakayama Tourism Review (WTR) は、CTR研究員およびCTR客員フェローによる研究論文や調査レポート等を収録した、CTR初となる全英文のジャーナルである。年1回の発行に加え、今年度は上述のCTR主催国際学会「CTR International Tourism Research Salon」の特別号(Vol.3)も発行した。なお、オンライン版を本学学術リポジトリにて一般公開している。



<http://repository.center.wakayama-u.ac.jp/en/journal/24363839>

## 2.2. 研究・教育サポート

### 2.2.1. 研究力養成支援

#### ●観光教育FD (Faculty Development)研修

本学観光学部GP教育運営部会との共催で、学内のFD研修として「Navigating tourism education and research in the COVID-19 storm - Finding our 'new normal'?」を、6月10日(木)にオンラインで開催した。オーストラリア・サンシャインコースト大学のDr. Aaron Thamを講師に、パンデミックにより

オーストラリアやアジア各国の観光教育・研究の現場がどのように変化、対応しているのかの紹介が行われた。また、観光教育活動の成果を国際ジャーナルに投稿する意義や取り組み方についても、Dr. Thamの論文掲載の事例を交えながら議論した。





## ● 科研費申請FD研修

8月26日(木)には、科研費申請支援を目的に、主に若手研究者(特に英語で研究活動を行っている研究者)向けFDとして「CTR KAKENHI Workshop 2021」をオンラインで開催した。科研費概要や仕組み、書類作成方法について、CTR研究員の永井隼人准教授(本学観光学部)から情報提供を行った他、科研費獲得実績のある研究員とも意見を交換し、将来の申請を目指す博士後期課程学生にとっても示唆に富むワークショップとなった。



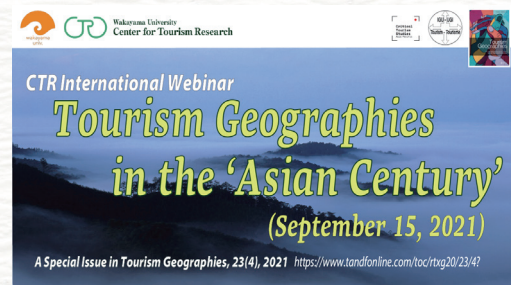
## ● CTR SD(Staff Development)研修

CTR 事務スタッフ向けSD研修として、10月15日(金)に、「Web of Science」の利用についての講義がCTR研究員の永井隼人准教授から行われた。研究論文の出版状況を把握・分析するために、本データベースをいかに活用するかをハンズオン形式で学んだ。

## 2.2.2. セミナー等イベント開催支援

### ● Tourism geographies シンポジウム

CTR専任研究員のJoseph Cheer特任教授のコーディネートで、Cheer教員が共編者として参加した国際学術誌「Tourism Geography」の特集号(第23巻4号)「Recentering Tourism Geographies in the 'Asian Century」の出版を記念したウェビナーを、9月15日(水)に開催した。3名の基調講演の他、CTR専任研究員のRicardo Nicolas Prozano特任講師ら執筆に参加した研究者による発表も行われた。地政学的変化の中で存在感を増すアジアに焦点を当て、観光地理学の見地からポストコロナの観光を議論した。録画動画はCTRウェブサイトから視聴可能。



<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/research/webinar/webinar2021.html>



●CTR 地域研究ユニットセミナー  
「Overcoming negative disaster images:  
How Fukushima's sake breweries rebuilt  
its regional brand」

CTR専任研究員のJoseph Cheer特任教授のコーディネートにより、東北大学のDavid N. Nguyen特任准教授を講師に迎え、ハイブリッド形式のセミナーを11月5日(金)に開催した。東日本大震災後の影響による福島県産の製品に対する風評被害を、地元酒造メーカーが中心となっていかに克服したのか、福島が直面している経済・観光危機からの復興についての研究報告を基に議論した。録画動画はCTRウェブサイトから視聴可能。

<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/research/webinar/webinar2021.html>



●CTR 地域研究ユニットセミナー  
「Social Entrepreneurs between  
Self-Determination and Structural  
Constraints: Examples from Tokushima  
and Miyagi Prefecture」

CTR専任研究員のJoseph Cheer特任教授によるコーディネートで、北海道大学大学院のSusanne Klien准教授を講師に迎え、1月22日(金)にウェビナーを開催した。地方に移住し起業した人々の動機や彼らのワークライフスタイル、またコロナによる打撃と再発見について、Klien准教授の著書「Urban Migrants in Rural Japan: Between Agency and Anomie in a Post-growth Society」を基に講演された。質疑応答では、日本の地方移住や地域コミュニティの懸念についても活発な議論が行われた。録画動画はCTRウェブサイトから視聴可能。

<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/research/webinar/webinar2021.html>



●鼎談「和歌山の観光イメージの創造  
—吉田初三郎鳥瞰図を通して—」

CTR文化・遺産研究ユニットの取り組みとして、2月22日(火)にCTR副センター長の東悦子教授によるコーディネートで、石川肇CTR客員フェロー(国際日本文化研究センター)および、CTR専任研究員Ricardo Nicolas Prozano特任講師との鼎談の様子をライブ配信した。石川氏から、日本内外の旅行パンフレットに鳥瞰図を取り入れた絵師、吉田初三郎について解説が行われた後、初三郎の作品を題材に、観光地図としての鳥瞰図の役割や価値について議論を行った。





### ●Space & Mobility 研究グループ シンポジウム「観光から見た宇宙6」

6年目となる本シリーズは、今回は「アストロツーリズム、これまでとこれから」をテーマとして2月23日(水・祝)にオンラインで開催された。ニュージーランド・テカポで星空ツアーを行うDark Sky Projectを立ち上げた小澤英之氏の講演および、和歌山大学大学院観光学研究科博士前期課程の澤田幸輝氏によるアストロツーリズム研究の動向についての報告が行われた。また、和歌山県みなべ町で星空ツアーを行うSTAR FORESTを率いる角田夏樹氏を交えたパネル討論では、CTR研究員の尾久土正己教授がモデレーターを務め、同研究員の富田晃彦教授が本イベントの全体統括を行った。



### ●「第4回日本国際観光映像祭」

摂南大学、和歌山大学観光学部とともにCTRが実行委員会を構成し、CTR研究員の木川剛志教授が代表を務める日本国際観光映像祭が、3月16日(水)～17日(木)にオンラインで開催された。4回目を迎えた今回は、過去最高となる国内部門201本、国際部門1,542本もの観光映像の応募があり、コンテストの表彰や講演等の多彩なプログラムは、鹿児島県与論町を会場に国内外へライブ配信された。持続可能型の観光地として注目が集まる与論島を舞台に、観光とSDGsについてもパネル討論等のセッションで議論が交わされた。



## 2.2.3. 観光学部授業科目の開講支援

CTR専任研究員1名が、観光学部及び観光学研究科の一部科目(観光学部科目に関してはグローバル・プログラム(GP)対象科目)の開講を支援した。2021年度開講科目は下記の通り。

観光学部科目名	担当者
Critical Issues in Tourism A	Ricardo Nicolas Prozano
観光学研究科科目名	担当者
Tourism and Heritage Management	Ricardo Nicolas Prozano



## 2.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー

### 2.3.1. ニュースレター発行

「CTR Newsletter」を毎年9月と3月に発行し、CTRが取り組む研究や教育支援活動、国内外の観光関連研究情報を紹介している。

CTRウェブサイト (<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/resource/newsletter.html>) からPDFファイルのダウンロードも可能。

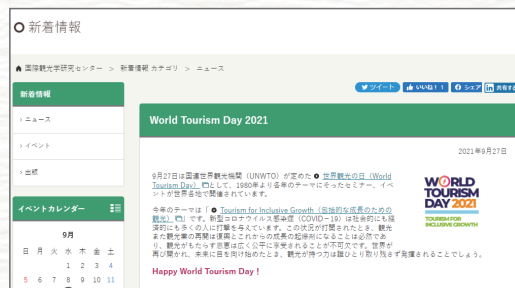


### 2.3.2. 外部機関との連携促進

#### ● UNWTO 主催

#### 「World Tourism Day 2021」参加

毎年、9月27日は国連世界観光機関 (UNWTO) が定めた「世界観光の日 (World Tourism Day)」として、1980年より各年のテーマにそったイベントやプログラムが世界各地で開催されている。2021年のテーマは「Tourism for Inclusive Growth (包括的な成長のための観光)」で、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) がもたらした甚大な影響を乗り越え、観光の復興によってその恩恵が広く公平に享受されることを提唱した。CTRでもこのイニシアティブに賛同し、客員フェロー含めた研究員が、「世界観光の日」を祝うビデオメッセージシリーズを作成し、CTRウェブサイト (<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/news/2021092400019/>) で公開した。



### 2.3.3. メディア出演

#### ● Nikkei Asia へのコメント提供

CTR 専任研究員、Joseph Cheer 特任教授が Nikkei Asia の取材を受け、新型コロナウイルスの打撃を受けるアジア地域の観光再開のカギを握るワクチン接種やトラベルバブルについて、アジアの状況と見解を述べた。

「Asia struggles with vaccine passports as delta challenges region」(2021年8月17日, Nikkei Asia)

<https://asia.nikkei.com/Spotlight/Coronavirus/COVID-vaccines/Asia-struggles-with-vaccine-passports-as-delta-challenges-region>



## ●フィンランド最大の新聞社のビデオ取材

CTR専任研究員、Joseph Cheer特任教授がフィンランドの有力新聞紙「Helsingin Sanomat」のビデオ取材を受け、レスポンシブルツーリズムの観点から、新型コロナウイルスにより甚大な影響を受けている観光産業の強靭さと、持続可能性における課題について指摘した。

「Koronavirus muuttaa matkailua, mutta totumme siihen, uskoo professori – Tutkijat kertovat, miltä turismin tulevaisuus näyttää (新型コロナウイルスは観光を変えるが、我々はそれに慣れるだろう- 研究者が語る観光の未来像[参考日本語訳])」(2021年5月18日, Helsingin Sanomat)

<https://www.hs.fi/ulkomaat/art-2000007972798.html?share=bdc25f49044719ce7e908e95b616617f>

※要購読

## 2.3.4. 学会、イベント参加

CTRスタッフが出席したイベントは以下の通り。

日程	イベント名	主催
5月27日～28日	International Conference on Responsible Tourism and Hospitality (ICRTH2021) (後援・オンライン参加)	Ministry of Tourism, Arts and Culture (MTAC) Sarawak; Faculty of Hospitality and Tourism Management, UCSI University, Malaysia; Sarawak Research Society; Emerald Publishing (East Asia)
6月28日 ～7月1日	The 7th Annual Conference of EATSA (Euro-Asia Tourism Studies Association) (後援・参加)	Euro-Asia Tourism Studies Association
7月15日	第18回 UNWTO活用検討会 (オンライン出席)	観光庁
11月9日	第19回 UNWTO活用検討会 (東京)	観光庁
11月16日～17日	UNWTO Regional Conference on the Empowerment of Women in Tourism in Asia and the Pacific(クアラルンプール)	UNWTO; Ministry of Tourism, Arts and Culture of Malaysia
11月30日 ～12月1日	Pacific Islands Tourism Research Symposium(オンライン参加)	Massey University of New Zealand; New Zealand Foreign Affairs & Trade; Pacific Tourism Organisation; The University of the South Pacific
3月1日～2日	SEAMA 2022: Island Tourism & Hospitality Management (後援・参加)	琉球大学国際地域創造学部
3月18日	第20回 UNWTO活用検討会 (オンライン出席)	観光庁



## 2.3.5. 学会・イベント開催協力

### ●「ICRTH 2021」後援

5月27日(木)～28日(金)にマレーシアからオンラインで開催された「International Conference on Responsible Tourism and Hospitality」の後援を行い、Joseph Cheer特任教授がアドバイザーメンバーを務めた他、コミュニティベースドツーリズムのワークショップに登壇した。



### ●「EATSA 2021」後援

6月28日(月)～7月1日(木)に琉球大学を会場にハイブリッド形式で開催された国際学会「7th Annual Conference of EATSA (Euro-Asia Tourism Studies Association)」の後援を行った。Joseph Cheer特任教授が基調講演を行った他、木川剛志教授、佐野楓准教授、Ricardo Nicolas Prozano特任講師や各共同研究者も含め、多くのCTR研究員が研究発表を行った。



### ●「AY2021 JSS」後援

CTRが後援した「AY2021 Joint Student Symposium on Tourism, Hospitality and Leisure Research」が、1月22日(土)にオンラインで開催された。CTR研究員の永井隼人准教授とCTR客員フェローの齊藤広晃准教授(立命館アジア太平洋大学)が共同実行委員長を務め、本学観光学部の学生も英語で発表を行った他、CTR研究員のAdam Doering准教授や、CTR客員フェローの鎌田裕美准教授(一橋大学)、柏木翔助教(神奈川大学)も実行委員として参画した。

### ●観光学部永井研究室(ゼミ)ゲスト講義 共催

CTR経営研究ユニットの共催で11月24日(水)に、クイーンズランド州政府観光局(TEQ)日本局長のPaul Summers氏を講師に迎え、ゲスト講義が開催された。CTR研究員の永井隼人准教授のゼミ生だけでなく、CTR研究員も多数参加し、DMOとしてのTEQの事業及びコロナ後の戦略等についての講義を受け、質疑応答が活発に行われた。



### ●「SEAMA 2022」後援

国際学会「SEAMA 2022: Island Tourism & Hospitality Management」が3月1日(火)～2日(水)に琉球大学国際地域創造学部の主催で開催され、CTRが後援を行った。同大学を会場にハイブリッド形式で行われ、CTR研究員の木川剛志教授が基調講演に登壇した他、Joseph Cheer特任教授および永井隼人准教授、CTR客員フェローのChe-Jen Su教授(Fu Jen Catholic University)も実行委員やモデレーターとして、CTR研究員が開催に携わった。



### ●「第2回Working in Niseko研究会」共催

3月18日(金)に、CTR経営研究ユニットの共催で、Working in Niseko研究会(北星学園大学短期大学部英文学科主催)がオンラインで開催された。立教大学観光学部川嶋久美子准教授による講演や、科研費助成の共同研究に取り組むCTR研究員の永井隼人准教授とCTR客員フェローの森越京子教授(北星学園大学短期大学部)による研究報告等が行われ、北海道・ニセコにおける外国人ワーキング・ホリデー受け入れの状況について、研究者、産業界、地域との情報交換を実施した。



## 2.3.6. セミナー等の企画・運営

### 開催イベント一覧

開催日	イベント名称／講師等	ポスター
9/15(水)	<p><b>シンポジウム</b> 「Tourism geographies in the ‘Asian Century’」</p> <hr/> <p><b>スピーカー：</b> T.C. Chang (Associate Professor, National University of Singapore, Singapore) Kathleen Adams (Professor, Loyola University Chicago, USA) Tim Oakes (Professor, University of Colorado, Boulder, CO, USA)</p> <p><b>モデレーター：</b> Harng Luh Sin (Associate Professor, Sun Yat Sen University, China &amp; Singapore, Management University, Singapore; CTR Visiting Fellow, Wakayama University Japan) Mary Mostafanezhad (Associate Professor, University of Hawaii at Manoa, USA; CTR Visiting Fellow, Wakayama University, Japan) Joseph M. Cheer (Professor, Center for Tourism Research, Wakayama University, Japan)</p>	
11/5(金)	<p><b>セミナー</b> 「Overcoming negative disaster images: How Fukushima's sake breweries rebuilt its regional brand」</p> <hr/> <p><b>スピーカー：</b> David N. Nguyen (東北大学 特任准教授/国立研究開発法人防災科学技術研究所 研究員)</p> <p><b>モデレーター：</b> Joseph M. Cheer (和歌山大学国際観光学研究センター 特任教授)</p>	



開催日	イベント名称/講師等	ポスター
1/21(金)	<p><b>セミナー</b> 「Social Entrepreneurs between Self-Determination and Structural Constraints: Examples from Tokushima and Miyagi Prefecture」</p> <hr/> <p><b>スピーカー：</b> Susanne Klien (北海道大学大学院 メディア・コミュニケーション研究院 准教授)</p> <p><b>モデレーター：</b> Joseph M. Cheer (和歌山大学国際観光学研究センター 特任教授)</p>	
2/22(火)	<p><b>鼎談</b> 「和歌山の観光イメージの創造－吉田初三郎鳥瞰図を通して－」</p> <hr/> <p><b>スピーカー：</b> 石川 肇(国際日本文化研究センター プロジェクト研究員、和歌山大学国際観光学研究センター 客員フェロー) 東 悦子(和歌山大学国際観光学研究センター 副センター長、同 観光学部 教授、紀州経済史文化史研究所 副所長) プロガノ リカルド ニコラス(和歌山大学国際観光学研究センター 特任講師)</p>	
2/23(水)	<p><b>Space &amp; Mobility研究グループ シンポジウム</b> 「観光からみた宇宙6」</p> <hr/> <p><b>スピーカー：</b> 小澤 英之(Dark Sky Project代表) 澤田 幸輝(和歌山大学大学院観光学研究科 博士前期課程) 角田 夏樹(STAR FOREST代表)</p> <p><b>モデレーター：</b> 尾久土 正己(和歌山大学観光学部 学部長/教授、同 国際観光学研究センター 研究員)</p>	



開催日	イベント名称／講師等	ポスター
3/8(火)～ 9(水)	<p><b>CTR International Conference</b> 「International Tourism Research Salon」</p> <p><b>スピーカー：</b> 東 悦子(和歌山大学国際観光学研究センター 副センター長、同 観光学部 教授) 松山 典子(NPO法人高野山異文化交流ネットワーク代表) Philip Seaton (東京外国語大学大学院国際日本学研究院 教授) Sussane Klien (北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院 准教授) Carolin Funck (広島大学大学院人間社会科学研究科 教授)</p> <p><b>モデレーター：</b> Joseph M. Cheer (和歌山大学国際観光学研究センター 特任教授) Ricardo Nicolas Prozano (和歌山大学国際観光学研究センター 特任講師) Husna Zainal Abidin (和歌山大学国際観光学研究センター 特任講師) 永井隼人 (和歌山大学観光学部 准教授)</p>	
3/16(水)～ 17(木)	<p>「第4回 日本国際観光映像祭」</p> <p><b>スピーカー：</b> 木川 剛志(日本国際観光映像祭 ディレクター/和歌山大学観光学部 教授) 加嶋 章博(日本国際観光映像祭 審査委員長/摂南大学工学部 教授) 野村 佳子(摂南大学経済学部 教授) 松崎 まこと(映画活動家/放送作家) 宮田 耕輔(月刊ウララ編集長) シニシャ・ベリヤン閣下(駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使) 他</p>	



# CENTER FOR TOURISM RESEARCH

【発行】和歌山大学国際観光学研究センター  
〒640-8510 和歌山市栄谷930  
TEL.073-457-7025

<https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>

【発行日】2022年8月





Wakayama University  
Center for Tourism Research

2021年度 年次報告書  
和歌山大学 国際観光学研究センター